23年12月17日アドベント3週目主日礼拝　　日本同盟基督教団　クリスチャンプレイズチャーチ

【イエス・キリストを迎える姿勢②羊飼い】

聖書本文:ルカの福音書2章8-20節/暗唱聖句:ルカの福音書2章11節　説教者:鄭南哲(チョンナムチョル)牧師
（Rev.Jung nam-chul）

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! 早いものの来週は、いよいよ降誕の主日、クリスマス礼拝とクリスマス会などを迎えます。みなさんは今年のクリスマスを、イエス・キリストの降誕の時をどのように迎えようとしているでしょうか。来週にはクリスマス祝会として、この地に来られた救い主なるイエス・キリストの目的と神の愛を感謝と喜びを持って分かち合える時を迎えたいと願いつつ祈っております。

前回はお生まれになるイエス・キリストを迎えたヨセフに引き続き、今日はメシアなる神の御子イエス・キリストがみどり子としてお生まれになった当時、降誕を迎えた羊飼いの姿勢を調べながら我らを救う為に来られたイエスキリストを迎え入れる我らの姿勢について学びたいと願います。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！羊飼いという言葉からみなさんは何が感じられますか。「羊を飼う羊飼い」を想像すると、まるで情緒的に平穏で、美しく、牧歌的な風景が思い浮かんで来るかも知れません。

しかし、イエス様の当時、パレスティンのイスラエルでの羊飼いらの生活の都合はそんなに平坦な生活ではありませんでした。彼らは庶民でしたが、実際は当時の身分は一番低い仕事をする人々たちでした。経済的に苦しい、貧しい生活をしていたことをその当時の社会的状況を通して知ることができます。ほとんど自分の羊でも、自分の財産でもなく、人でもない臭いする動物の為、寒い夜野宿（のじゅく）する働きをする人たちの状況と身分だったので、もしかして一番弱い立場で、低い当時の人たちだったかも知れません。
当時王とか、貴族とか、社会的な指導者やリーダー、影響力を持っている人々でもなく、このように当時人々にはあまり認められず、疎外され、注目されてないこの羊飼いたちを神は特別選んで、真っ暗の夜に、おびただしい御使いが現れ、彼らに降誕の知らせが伝えられたこと、実際彼らがその神の御子メシアを迎えたと言うことはまさしく、信じがたい、驚くべき出来事に間違いなかったでしょう。

教会に長らく出席されている方々は大体羊飼いたちの話なら、よく聞いてご存知だと思います。そして、我々は羊飼いたちが主を迎えたという出来事にあまり驚かず気にしてないと思います。しかし、よく知られている今日の本文をもう一度考えながら、実際この地上に救い主イエスキリストが来られた初めてのクリスマスの時に、どうして神は羊飼いたちをお選びになったのか、御使いによるメシアの降誕のメッセージを聞いた彼らがどんな姿勢と反応で、降誕を迎えられたのか、来週クリスマスを迎える我ら共にもう一度今日の聖書本文を通して深く考えてみる時間になったらと願います。そして我らもこの降誕の季節に、我らを救うために来られたメシア、救い主なるイエスキリストをどう迎え入れるべきか、相応しく良き供えが出来るように心から切にお祈り申し上げます。

1. 羊飼いたちの純粋な信仰・行う信仰

今日の本文にもう一度目を留めて見ましょう。
8節「**さて、この地方で、羊飼いたちが、野宿しながら、羊の群れの夜番をしていた。9節すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。**」
そして、そう真夜中、野宿しながら、羊の群れの夜番をしていた羊飼いたちに特別現れた御使いはどんな特別なメッセージを伝えたでしょうか。
続けて10節～12節をご覧ください。
「**10御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。11今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。12あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりご**を見つけます。これが、**あなたがたのためのしるし**です。」

そしてこの救い主メシアの降誕のメッセージをお伝えした後素晴らしい光景がまた現れ、羊飼いたちは目撃します！
13－14節には「**すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現われて、神を賛美した。『いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和が、みこころにかなう人々にあるように。』**」

さあ、ずっと数千年間待ち続けて来た救い主メシアが我らのために来られる！ところが、そのメシアは力強い姿とはかなり違ったみどりご（ベビー）の姿としてお生まれになる、またさらに驚き、信じがたいのは、その偉大な方が宮殿とか、立派な大邸宅でもなく、布にくるまって飼葉桶で寝ておられるなんて！聞いたとしてもすべてが信じがたいメッセージの内容ばかりだったでしょう。その後、羊飼いたちの反応はどうでしたか。どうしましたか。
本文で御使いたちはみどり子イエスキリストの誕生を知らせる神のメッセージを残して羊飼いたちを離れて天に戻りま

した。その後に、羊飼いたちはいくらでもこんな信じがたいこのメッセージを聞き流さし、一晩の夢のように体の疲れや眠さの中無視することもできる状況だったのではないでしょうか。しかし、15節を見て見ましょう。「御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは(互いに)話し合った。『さあ、ベツレヘムまで行って主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見届けて来よう。」
神の御使いのメッセージを聞いた羊飼いたちの反応はどうでしたか。羊飼いたちは自分たちに知らされた救い主についてのメッセージをとりあえずそのまま信じたという話です。
まだ、彼らは自分たちの目でみどり子イエス・キリストがお生まれになったことを実際見ていません。
今は到底目の前では見張らないといけない羊たちの群れもいましたが、彼らはただ、聞いた神の救い主のメッセージを聞いた通り、単純に、純粋に信じ、またすぐその神のメッセージの主人公なる救い主メシアに会うために、すぐ行動に移し見届けに行くのです！ここに羊飼いたちのとても純粋な信仰！が見られます。

この世で人たちには身分、学歴、所有している財産などが大切かも知れませんが、神様には何の意味もありません。
しかし、羊飼いたちたちらを選んで下さったことだけ見ても、神様にはそんな身分、学歴、社会的な地位、どれほどお金や財産を持っているのかなど一切関心がありません。神様が関心を持っておられるのは、神様との関係の回復であります！つまり、人が神を愛し、神の御言葉を聞き、救い主を迎え入れ信じる事により、尊い人生が、人々が神の救いを受けて、救われる事のみを望んでおられます。御子イエスキリストをこの地に救い主として遣わされたのはその目的のためではないでしょうか。

ですから、ここでなぜ神様が貧しかった羊飼いたちを選んで下さったのかその理由の一つが分かります！
彼らは神の御言葉に対してとても素直に信じ、すぐ御言葉通り従っていた純粋な信仰の姿勢を持っていたからではないでしょうか。
ですから、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！
ここで信仰についての大切な一つの神のメッセージが染みられているのではないでしょうか。
それは、神の御言葉を信じ、救い主イエスキリストを受け入れる為には、子どもであっても、年を老いても、学歴が低くても、所有している物が少なくて生活が厳しくても、どんな仕事をし、どんな罪を犯した人であっても、何の関係がありません！つまり、真夜中、羊飼いたちさえも神の御言葉を聞き、信じ、従って、救い主イエス・キリストと出会い、迎え入れたならば、だれでも神と神の御言葉を受け止め、信じることも、キリストを迎え入れることが出来ます！
だれでも救い主イエスキリストを信じる事も出来ます！だれでもキリストに直接礼拝することも出来るのです。
ですから、神様の御前で人が勝てにあの人は最後まで絶対信じられないだろうと、救われないだろうと話してはいけません！

実に、救い主イエスキリストを迎え入れ、直接拝見し、礼拝することが出来るように赦され、用いられたマリアも、ヨセフも、東方の博士らも、今日の羊飼いたちとみんな違う立場や環境も身分も違う人たちでしたが、同じ共通のことがありました！それはみんな神のメッセージの御言葉に対する純粋な信仰とすぐ従える信仰を持っていた人々であった事です！

「ですから、信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです。(ローマ人への手紙10:17)」そうです！みなさん！信仰はいつも聞くことから始まります。自分に与えられた神様の御言葉の前で、自分はどのように反応するのか。まだ自分の目で確認できた状況ではなくても、自分に与えられた神様の御言葉にもとづいて、その通り信じ、神様が我々になされるそのくすしい御業を、救いの御業を信じられるのか。このようなことによって我々は自分の信仰を測ることができます。

そういうわけで、ヘブル人への手紙では信仰をこのように定義します。
「さて、信仰は、望んでいることを保障し、目に見えないものを確信させるものです。(ヘブル人への手紙11:1)」
まだ目に見えていることではありませんが、知らされた神様の御言葉に通り、心に受け止め、信じること、そしてその御言葉通りに従って見る事！これがまさに信仰の出発点であり、すべてだと信じます！我々は15節で羊飼いたちのこの純粋な信仰を見ることができます。御使いたちが特別に現われて、神の特別なメッセージを伝えたと言う驚く出来事より、もっと大切なのはそんな信じがたい神のメッセージを聞いてそのまま信じて、迷わずすぐ従ったという事実がもっと大切なのです。

愛する信仰の家族のみなさん！クリスマスシーズンになると、よくよく聞いている聖書の箇所の一つは「いと高き所で、栄光が。地の上で、平和が」だと思います。ある人々はこの箇所を持って来て言いがかりをつけるかも知れません。
“この地に、平和があるようにと言われたのに、どうしてこの地上での平和がおとずれないのですか。”と(ロシアとウクライナの戦争やイスラエルの中でのテロや争いなど)。
しかし、今日の聖書本文は漠然といと高き所に、栄光が、地には平和があるようにと言っていません。14節の御言葉を正確に訳しますと、「神様に栄光が、地には御心にかなう人々に平和があるように！」です。つまり、聞かれた神の御御

言葉通りの信仰を持って、心開き救い主を迎え入れ、救い主が共におられる人々に神の平和が訪れるようにされるという意味であって、ただ、地に全ての人々に神の平和があるようにという話ではありません。もしかすると地上では主が再び来られる日まで戦争と争いは絶え続けるかも知れません。
なぜですか。平和に対する人々の期待にもかかわらず、人々は腐敗した罪の本能を捨てることが出来ず、人の絶えられない貪欲、情欲、自分中心、自分勝手に生きる限り、この地に戦いと紛争は続けるでしょう。しかし、続いている紛争と争いの危険や不安、不信、恐怖の真ん中でも味わえる、保たれる神の平安！それは神の御心通り救い主を迎え入れた者たちのみに約束された神の平安なのです。「地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように！」

どうか、クリスマスの季節に、神様を愛し、イエス・キリストを救い主として迎え入れ、信じるみなさんの人生、ご家庭と主の教会の上に、神様の豊かな平和がおとずれる祝福の降誕を迎えられますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!

2023年前、ダビデの町ベツレヘムにイエスキリストが来られ、その方によって天には神様の栄光が、地の上には御心にかなう疲れた人々に、罪の苦しみの中にいた人々に、人生の希望を失っていた人々に神の平和がおとずれました！
いくら御使いたちがこのすばらしいお知らせを伝えましたが、もし羊飼いたちが信じなかったら、それで彼らには何の関係なく終わってしまったかも知れません。神様であるイエスキリストがこの地に人間の姿で来られた！という降誕のメッセージはその日以来人類歴史と共に二千年の間、ずっと言い伝えられて来ていますが、いまだに、多くの人々はこのメッセージを信じないまま、まったく関係ないまま生きている人々が多くいます。

ここで、我々が一つ覚えるべきことがあります。みなさん、救いの、平和の神様の御言葉を伝えるこの説教が大切でもありますが、それよりもっと大切なのは神の御言葉に対する人々がどう反応ではないでしょうか。
つまり、神の御言葉を聞いたという事実が大切ではなく、聞かれた神様の御言葉通り信じて、従う、実際神の御言葉通り行う、その通り生きる信仰の在り方が実はもっと大切であるということです。

2. 救い主に優先順位をおいた羊飼いたち

羊飼いたちは知らされたメッセージを信じただけではなく、その救い主に最優先順位をおきました。
16節をみてください。
「そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ておられるみどりごを捜し当てた。」
ここで印象的な単語は「急いで行って」というところです。神様の知らせを聞いた羊飼いたちは告げられたメシアに会いたくて、急いで行ったと書かれています。しかし、メシアなるみどり子に会うためには、自分がやっていた全てをしばらくおろさなければなりません。神様からのお言葉を聞いて、救い主に対する期待を持った瞬間から羊飼いたちの心において一番大切な優先順位は、救い主に直接迎え入れ、拝見することに変わりました！
（もちろん、そのまま羊たちをずっとほったらかしたわけではないでしょう。また急いですぐ戻ったかも知れませんし、もしかしたら交代交代でいたかも知れませんが、ここで大事なのは、彼らの心の中の優先順位が変わっていたことです。）
ここで、自分たちの信仰の対象であるイエスキリストに最優先順位を置いた、羊飼いたちの信仰を我々は見ることが出来ます。毎週礼拝に、今日の礼拝に参加されているみなさんにも、きっと羊飼いらのように、この時間、神の御言葉通り信じているため、従って、神の御前に礼拝を捧げることに今一番最優先のおいて来られ、今日もそうなさっているのではないでしょうか。

我々の教会にはそのような方々がいないと信じていますが、今の時代の人々の信仰生活を見ると、自分のやりたいことを全部やってからの残りやスケジュールがなければ‘教会に行って礼拝でも参加して見ようかな。時間があれば聖書を読んで見ようかな。時間の余裕があったら祈ってみようかな’という考えを持っている方々がいるかも知れません。
そして、自分のためにお金を使って残ったら、“すこしは神様にあげなきゃ”という、まるで残りの小銭を困っている人たちに施すように神様に献金をささげる人もいるかも知れません。

イエス・キリストを祝い迎えるこの降誕の季節！我々は今自分の心の中の信仰により、優先順位を正しく立てているのか、立て直す必要はないか点検する時となりますように祈ります。
羊飼いたちは自分たちを救うために救い主が来られたことを信じました。真夜中まで羊を守る為に寒い外で徹夜しながら、どれほど、羊飼いたちは疲れていたのでしょうか。その方に拝見するために彼らは目の前の羊たちなどすべてのことをしばらく後にするしかありませんでした。まだ見ても、会ってもないですが、心から信じている実際来られたみどり子救い主に直接行って拝見する為、決断し、一刻（いっこく）も迷わず、ベツレヘムに向かいました！

ところが、みなさん！あんなに心かけて犠牲を払って羊飼いたちが行ってみたら、立派な家でもなく、普通の旅館でもなく、なんと御使いたちが本当に言われた通りに、馬小屋の飼葉桶にイエスキリストがお生まれ、おかれていたのでは

ありませんか。彼らは見た目としてはとってもかっかりしたかも知れません。もし羊飼いたちが目に見えることによってすべてを判断する、大事だという価値観をもっていた人たちであったならば、“まさか、これがメシアであるわけがないでしょう。こんな臭くてみすぼらしいところに神の御子なんてあり得ない”と思われたかも知れません。**ところが、聖書の本文にはどこも羊飼いたちががっかりしたと書かれていません。**
これを通して、羊飼いたちはすでに信仰の目を持っていたと推し量ることができます。

馬小屋という場所、飼葉桶に眠っておられるみどり子の姿であっても、彼らの信仰を揺らぐような何の影響もさせませんでした。なぜなら、すでに神のメッセージ、神の御言葉を聞いて信じていたからです！御言葉による信仰は目に見える物や環境に揺らぐことなく、ゆさぶれることなく、左右されません。

彼らは神様のメッセージを聞いた以上、神様のお言葉どおりにお生まれになった馬小屋のイエスキリストを人類の救い主、待ち望んでいたそのメシアとして迎え入れ、拝見することが出来ました。**それは人間の経験や自分の常識、見える環境や状況の基準ではなく、この羊飼いたちにすでに与えられた神の御言葉による信仰の目と心で全てを見ていたということに気付かされます。**

コリント人への手紙第二5章7節を通して信仰の本質についてもう一度確認してみたいと思います。
「**私たちは見えるものによらず、信仰によって歩んでいます。**」
この短い箇所から信仰生活の本質とは何かがよく説明してくださっています。クリスチャンは日々、どのように生きるべきでしょうか。目に見えるものではなく、信仰によって生きる存在、人たちです。願わくは、今年のクリスマス！イエスキリストの降誕の季節に我々の信仰を御言葉に置き、今までより神の御言葉から離れず、親しみ、心にとめて生きましょう。実際御言葉の約束通り来られ、今も御言葉の約束通りインマヌエルの救い主として共におられるイエスキリストと共に日々歩める全クリスチャンプレイズの信仰の家族となりますようにお祈り申し上げます！アーメン！

3. 喜んで救い主を伝える羊飼いたち

羊飼いたちは神の知らせを信じ、救い主メシアなるイエスキリストを拝見してからはどうしましたか。
17節をご覧ください。
「**それを目にして羊飼いたちは、この幼子（おさなご）について自分たちに告げられたことを知らせた。**」
自分たちだけ聞き、体験し、知っているメシアの降誕の事実を自分たちだけでとめておくことが出来ませんでした！そして帰りの道にほかの人々に彼らが聞いて見たことを伝え始めます。ですから、**もしかすると羊飼いたちこそ降誕のメッセージに対する最初の伝道者たちだったかも知れません。**羊飼いたちが御使いからの知らせを伝えた時、人々の二つの反応がありました。
始めに、**18節をみてください。「聞いた人たちはみな、羊飼いたちが話したことに驚いた。」**
ここで聞いた人たちは一般的な聴衆たちを指しています。そして **“驚いた”**という言葉は、**御使いたちが伝えたメッセージを羊飼いたちが聞いてから不思議に思っただけの反応**です。**聖書の原語によるとこの文章の動詞が、否定過去形でだった一度だけ感じた**ということです。つまり、これは**好奇心**だとも言い換えます。それ以上はありません。ここまではその当時の羊飼いたちから聞いた人たちも、今日の人々も変わらず、降誕のメッセージを聞いた大体の人々の反応です。まるで今日多くの人々が神様の御言葉を聞くと、感動を受けたり、好奇心は共感しますが、そこで終ってしまうのと同じです。しかし、残念ながらそれは救い主に関する神の御言葉に対する相応しい反応ではなく、それに何の変化もありません。

二つ目に、**19節**では、 例えマリアの違う反応をみてください。「**しかしマリアは、これらのことをすべて心に納（おさ）めて（treasured up：大切に心におさめる）、思いを巡らしていた（pondered them in her heart）。)**」**しかし（BUT）という言葉が含まれています。つまり、多くの人々は羊飼いたちのように救い主イエスキリストについて聞いて驚いただけでしたが、しかし、マリアの場合は反応が違ったという意味が含まれています！すなわち、マリアは羊飼いたちからの神の御言葉と出来事を聞いて、心に大切に納め、ずっとその思い巡らし続けながらそれを守っていたという意味であります。（巡らす-未完了形）**

ある人々は御言葉を聞いた後、「とってもすばらしいお話だったわ」と言って、しばらく経てからはすぐ忘れてしまいます。それで終るのです。しかし、マリアは羊飼いたちを通して伝えられた救い主イエスキリストに対するメッセージ、御言葉をずっと大切に心に納め、続けて思い巡らしていたと記録されています。つまり、**じっくりかみくだいて考え続けた（黙想）という意味です。そのような態度こそは御言葉をいただく人が持つべきとっても大切な姿勢です。** 我々はここで神の御言葉、メッセージに対したマリアの信仰を知ることができます。
19節の御言葉をただ見のがさないで下さい。「心に納めて、思い巡らしていた」はとっても大切な箇所です。
キリストに対するお言葉を心にいつもとめて、考え続けていたマリアにそのメッセージは祝福となりました。
降誕を迎える私とみなさんの今の心と思いは何で満たされているでしょうか。この降誕の季節に多くの人々の言葉では

なく、神様の約束の御言葉で、我々の心と思いを満たし、御言葉の救いの約束と平和の祝福を共に体験して行くみなさんの生活となりますようにお祈り申し上げます。

大切なのは、羊飼いたちは自分たちで信仰を持って終わったのではなく、伝え始めたということです。
実は最初の降誕の福音伝道者たちは羊飼いたちでした。
そして20節「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながらかえって言った。」に自分たちが聞いて、見たことが全部、御使いたちの言われた通りであることを見て、神様をあがめ、賛美しながら帰っていたと書かれています。

メッセージを終らせます。今日の本文で羊飼いたちのように15節に人類を私とあなたを救うために、救い主が来られたという神の偉大な喜びのメッセージを事実として受け入れ信じましょう。
16節に救い主を自分の心の中一番の優先を置き、御言葉通り行って従って拝見したように、もう一度心の優先順位を点検し立て直しましょう。そして、17節にその救い主を自分だけ受け入れ信じて終わったではなく、神の救いの御業を伝え、知らせ始めたのです。羊飼いたち初め、先に救い主イエスキリストを信じていた多くの信仰の人々がこの素晴らしいメシアの降誕の良い知らせを伝えてくれたのは今我らも信じることが出来、この礼拝を捧げているのではないでしょうか。クリスマスは「あなたがたを愛するがゆえに、あなたがたを救うために救い主メシアなるイエスキリストが来られた」ことを、「だれでもその方を迎え入れ、信じることが出来る、そうすれば必ず神の御約束通り救われる」のを我らも伝えるべき時であることを決して忘れないでください。
そして、最後に彼らは救い主を遣わして下さった神様に賛美を持って栄光をささげました！
今年のクリスマスも声高らかに、喜んで救い主を遣わして下さった神様に賛美を持って栄光をささげましょう！

羊飼いたちに告げられた、この救いのメッセージは今日我々にも知らされています。特に今年2023年クリスマスに、我々もこの地に来られた救い主イエスキリストの愛と救いを確かめ、心に大切に信じましょう。共に神の救いと愛を感謝と喜びをもって賛美し、礼拝しましょう。しかし、我らだけではなく、是非今年のクリスマスにはまだこの知らせを知らず、信じない人々にあなたのために、救い主がすでに来られたことを分ち合い、伝えるクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますように我らの救い主イエスキリストの御名によって祝福をお祈りいたします。アーメン！！